

アスパラガスの秋期定植における夏芽収穫開始時期が収量に及ぼす影響

居村正博 (長崎県総合農林試験場)

Masahiro IMURA:

Effect of harvest time in summer-spear on yield of asparagus

アスパラガスは、定植初年目においては株養成が重要とされており、春期定植の場合は、ほぼ株養成のみとなるが、秋期定植では、翌年より夏芽を収穫できるものの、収穫開始適期については不明な点が多い。このため、秋期にセル苗を定植し、翌年の夏芽より収穫を開始する作型において、最も有効な収穫開始時期および株養成に必要な立基本数について検討した。

1. 材料および方法

6 m 間口のパイプハウスに、品種「ウェルカム」の128穴セル成形苗を1997年10月14日に直接定植し、1998年の夏芽収穫まで株養成を行った。夏芽の収穫開始時期は、開始Ⅰ区(5月25日=7mm以上立基本数40本)、Ⅱ区(5月27日=7mm以上立基本数50本)、Ⅲ区(6月8日=7mm以上立基本数5.7本)、Ⅳ区(7月6日=7mm以上立基本数83本)、春どりのみ区(12月19日まで株養成のみ=7mm以上の立基本数130本)の5処理を設け、1998年の夏芽および1999年の春芽の収量調査を行った。

2. 結果および考察

1) 初年目の株養成のために立茎した本数および茎の太さは、夏芽収穫開始時期を遅らせるほど多くかつ太くなった(第1表)。

第1表 夏芽収穫開始時期と生育状況

区	立 茎			夏秋芽 収穫開始	夏秋芽 収穫終了
	7mm以上 茎数/株	平均茎径 上位4本	全茎数 (mm)		
Ⅰ 区	4 0	9 0	8 9	5 / 25	10 / 30
Ⅱ 区	5 0	9 6	9 2	5 / 27	10 / 30
Ⅲ 区	5 7	10 0	9 4	6 / 08	10 / 30
Ⅳ 区	8 3	11 2	10 0	7 / 06	10 / 30
春どりのみ区	13.0	14.0	11.4	—	—

注) a) 平均茎径:立茎した成茎の上位4本および7mm以上の全成茎数の平均値
 b) 定植日:1997年10月14日 畦幅1.5m, 株間25cm (260株/a)
 c) 収穫:夏秋芽(1998年), 春芽(1999年4月30日まで)

第2表 夏芽収穫開始時期が収量に及ぼす影響 (a 当たり)

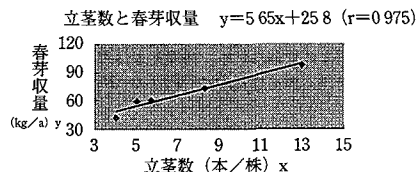
区	夏秋芽		春芽		合計 (夏秋芽+春芽)						
	上物 重量	上物 重量	上物 重量	上物 重量	1本重	2L級	L級	M級	S級	L級以上 重量	
	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(kg)	
Ⅰ 区	176.4	41.3	217.7	15.8	5.4	44.1	29.9	20.6	107.8		
Ⅱ 区	194.9	59.0	253.9	16.5	8.3	45.2	29.6	16.9	135.8		
Ⅲ 区	136.0	60.7	196.7	16.9	9.4	46.6	28.0	16.2	110.2		
Ⅳ 区	97.9	73.0	170.9	17.4	8.7	49.4	27.6	14.2	99.3		
春どりのみ区	—	97.9	97.9	22.9	24.5	57.7	11.3	6.5	80.5		

注) a) 上物1本重 上物でS級以上の若茎の平均重
 b) 2L級:34g以上, L級:34~18g, M級:18~12g, S級:12~7g以上

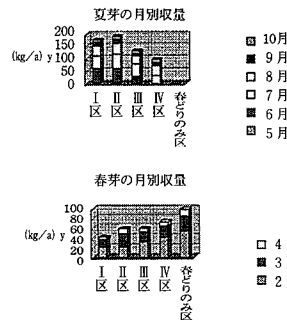
2) 夏芽の初年目の上物収量は、Ⅱ区が最も多く、その他は、茎をできるだけ立茎させるよりも早期から収穫し、特に6~7月に収量を確保した区が収量が多い傾向になった。一方、翌年の春芽の上物収量は、前年にできるだけ立茎させ株養成をした区の順に、上物収量が多くなり、特に1月末からの収穫始期より一斉萌芽し、2月の収量の差が大きかった。夏芽および春芽の収量を合わせた試験期間の全収量は、Ⅱ区が最も多く、その他は、Ⅰ区>Ⅲ区>Ⅳ区>春どりのみ区の順になり、夏芽を早く収穫したほうが結果的に多収となった。また、茎径7mm以上の立基本数と翌年の春芽収量には、高い相関関係が認められた(第2表, 第1図, 第2図)。

3) 上物1本当たりの重量およびL級以上の重量比率は、春どりのみ区>Ⅳ区>Ⅲ区>Ⅱ区>Ⅰ区の順となり、株養成期間に重点をおき、立茎した茎径が大きいほど大きくなり、初年目の株養成は特に春芽の萌芽初期からの一斉萌芽による収量および階級割合に対する影響が大きいと思われる(第2表)。

これらのことから、秋期定植における翌年の夏芽収穫開始時期は、7mm以上の茎を5本立茎させた後、早期に収穫を開始することにより、初年目から安定した収量が得られる。また、保温対策を徹底し、株の生育を揃え、定植後の株養成を早期に行うことも重要である。



第1図 立基本数と春芽収量の関係



第2図 夏芽および春芽の月別収量